

第 83 号(令和 7 年 10 月発行)

令和 7 年は、7 月に第 2 回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

## 主な質問・答弁要旨

谷川孝栄議員



・ 主  
な 質  
問 項  
目  
に  
つ  
い  
て  
・ 展  
望  
展  
示  
室  
の  
リ  
ニ  
ュ  
ー  
アル

- ポートビル 14 階展望展示室「うみてらす 14」は、リニューアルを行うとのことだが、スケジュールなどを含め、具体的な計画と展示内容の方向性について聞きたい。
- 展望展示室「うみてらす 14」は、展示物や設備の老朽化が進んでおり、また、時代の変化に即した展示内容に見直していく必要がある。例えば、荷役作業などを体験する展示やデジタル技術を用いた展示を取り入れるなど、将来港湾物流の担い手となる子どもたちに楽しみながら港の仕事に興味を持つてもらうという視点も重視していきたい。令和 6 年度に一般来場者や社会見学で来訪した学校をはじめ、港湾関係団体や物流事業者、荷主企業、観光団体など様々な分野の関係者を対象にニーズ調査を実施した。今年度は昨年度に実施したニーズ調査の結果や展望展示室の現状・課題などを踏まえ、リニューアルに向けた基本構想・基本計画の策定を進めたい。具体的には、四日市港の重要性や魅力を発信する施設としてふさわしいリニューアルのコンセプトを作成し、展示の構成や手法等について検討を行っている。これらを基に、令和 8 年度は改修する展示物や設備等の設計業務を行い、令和 9 年度には改修する予定であり、令和 10 年度のリニューアルオープンを目指している。
- 次の 6 点について提案したい。  
①ストーリー重視の展示構成  
②体験プログラムの刷新  
③夜景を活かした演出  
④デジタル展示と情報接続強化  
⑤地域連携とイベント拡張  
⑥持続可能な施設運営である。既に実施していることが多いと思うが、さらに魅力的にリニューアルしていただきたい。リニューアルの目的はただ新しくすることではなく、訪れる人が港の過去・現在・未来にワクワクする場づくりだと思う。四日市港にはこれからも大きな期待をしたい。

荻須智之議員



・ 主  
な 質  
問 項  
目  
モ  
ー  
ダ  
ル  
シ  
フ  
ト  
に  
つ  
い  
て

- モーダルシフトについて、3 点聞きたい。  
(1)四日市港がカーボンニュートラル港をうたう上では、トラック輸送から船舶による代替輸送ルートを構築すべきと考えるが、管理組合の考えはどうか。  
(2)内航コンテナ用に整備すべきインフラ設備はあるか。  
(3)モーダルシフトを先導するためにポートセールス等で PR すべきではないか。
- (1)「四日市港港湾脱炭素化推進計画」では、港湾及び産業の競争力強化に資する脱炭素化に関する取組の一環としてモーダルシフトを推進するとし、「四日市港長期構想」や「四日市港戦略計画」でもモーダルシフトを推進するとしている。今後も環境負荷軽減やトラックドライバー不足等の社会課題に対応する荷主企業支援のため、積極的にモーダルシフトを促進していく。また、今後の潜在貨物は、国土交通省の「貨物地域流動調査」等を用いた推計から 270 万トンがターゲットになるのではと期待している。  
(2)内航コンテナ船は、全て外航コンテナ船が着岸するコンテナターミナルに入港しており、ISO 規格のコンテナは、同じガントリークレーンでの作業が可能のため、外航コンテナ船と同じ施設での対応が可能な状況である。  
(3)令和 6 年 4 月から「荷主企業四日市港利用支援事業補助金」の補助対象に内航コンテナ貨物を加え、今年 4 月からは補助単価の倍増などの制度改正を行った。船会社に対する補助金についても令和 6 年 4 月から内航を加えた。官民一体で組織された四日市港利用促進協議会でポートセールス活動を実施しており、四日市港セミナーや四日市港見学会、個別企業訪問等を行い、PR をしている。
- セミナー等で PR をしっかりしていただいている上に補助金を拡充されていることは、非常にありがたいと思う。この調子で貨物量を増やしていただければと思う。